



中野立教会
ニュース

サンプラザ 79

Nakano Rikkyo Alumni Club

発行日：2011年5月17日
中野区中野1-62-10
川井勝勇方
編集：菊池高彦

東日本大震災で被災されたすべての、地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ご挨拶

今まで感じたことがない揺れを感じながら、これは大変なことにならないかといがと念じていましたが、千年に一度といわれるほどの震災になってしまいました。

個人的ですが今日・明日・1年という短期ではなく、息の長い身の丈に合った復興支援を続けていかなければと強く思っております。

会長
川井勝勇

第29回 中野立教会 総会

今回の講演会は今年の3月に卒業式を中止した新座中・高校の渡辺憲司校長をお迎えします。渡辺校長の卒業生メッセージ(裏に掲載)は3月16日だけでも30万人が閲覧する記録になり卒業生のみならず大勢の一般の学外の方々にも大きな反響を呼んでおります。

■開催日:6月4日(土)

■場所:West53rd 日本閣

■受付:15:45

総会:16:15~16:45

■講演会:17:00~18:00

講演題目「江戸の心意気」

立教新座中・高等学校 渡辺憲司校長

■懇親会:18:15~20:15

■会費:¥6,000/人

■締切:5月30日(月)まで



JR

JR中央・総武線
東中野駅
下車 徒歩1分

東口(新宿寄り)の改札をご利用ください。
東中野駅へはJR 新宿駅、またはJR 中野駅で
中央総武線にお乗り換えください。

地下鉄

都営 大江戸線
東中野駅
下車 徒歩5分

A-1 出口を右に出てJR 線路沿い
お進みください。

〒164-8577 東京都中野区東中野5-2

Tel: 03 3367 2222 Fax: 03 3367 0220 Web: <http://www.w53.jp>

略歴紹介



昭和43年立教大学卒。
武蔵高校教諭などを経て、立教大学文学部教授。
文学部、水上スキー部・野球部・応援団などの部長を経て、
2010年3月定年退職。
同年8月より立教新座中学・高等学校校長。

卒業式を中止した立教新座高校3年生諸君へ。

諸君らの研鑽の結果が、卒業の時を迎えた。その努力に、本校教職員を代表して心より祝意を述べる。
また、今日までの諸君らを支えてくれた多くの人々に、生徒諸君とともに感謝を申し上げる。
とりわけ、強く、大きく、本校の教育を支えてくれた保護者の皆さんに、祝意を申し上げるとともに、心からの御礼を申し上げます。未来に向かう晴れやかなこの時に、諸君に向かって小さなメッセージを残しておきたい。
このメッセージに、2週間前、「時に海を見よ」題し、配布予定の学校便りにも掲載した。
その時私の脳裏に浮かんだ海は、真っ青な大海原であった。しかし、今、私の目に浮かぶのは、津波になって荒れ狂い、濁流と化し、数多の人命を奪い、憎んでも憎みきれない憎悪と嫌悪の海である。これから述べることは、あまりに甘く現実と離れた浪漫的まやかさに思えるかもしれない。私は躊躇した。しかし、私は今繰り広げられる悲惨な現実を前にして、どうしても以下のことを述べておきたいと思う。私はこのささやかなメッセージを続けることにした。

諸君らのほとんどは、大学に進学する。大学で学ぶとは、又、大学の場において、諸君がその時を得るということはいかなることか。大学に行くことは、他の道に行くことといかなる相違があるのか。大学での青春とは、如何なることなのか。

大学に行くことは学ぶためであるという。そうか。学ぶことは一生のことである。いかなる状況にあっても、学ぶことに終わりはない。一生涯辞書を引き続けろ。新たな知識を常に学べ。知ることに終わりはなく、知識に不動なるものはない。

大学だけが学ぶところではない。日本では、大学進学率は極めて高い水準にあるかもしれない。しかし、地球全体の視野で考えるならば、大学に行くものはまだ少数である。大学は、学ぶために行くことと広言することの背後には、学ぶことに特権意識を持つ者の驕りがあるといてもいい。多くの友人を得るために、大学に行くことと云う者がいる。そうか。友人を得るためなら、

このまま社会人になることのほうが近道かもしれない。どの社会にあらうとも、よき友人はできる。大学で得る友人が、すぐれたものであるなどといった保証はどこにもない。そんな思い上がりは捨てるべきだ。楽しむために大学に行くという者がいる。エンジョイするために大学に行くと言言する者がいる。これほど鼻持ちならない言葉もない。ふざけるな。今この現実の前に真摯であれ。君らを待つ大学での時間とは、いかなる時間なのか。学ぶことでも、友人を得ることでも、楽しむためでもないとしたら、何のために大学に行くのか。誤解を恐れずに、あえて、象徴的に云おう。

大学に行くとは、「海を見る自由」を得るためなのではないか。言葉を変えるならば、「立ち止まる自由」を得るためでないかと思う。現実を直視する自由だと言い換えてもいい。

中学・高校時代。君らに時間を制御する自由はなかった。遅刻・欠席は学校という名の下で管理された。又、それは保護者の下で管理されていた。諸君は管理されていたのだ。大学を出て、就職したとしても、その構図は変わらない。無断欠席など、会社で許されるはずがない。高校時代も、又会社に勤めても時間を管理するのは、自分ではなく他者なのだ。それは、家庭を持っても変わらない。愛する人を持って、それは変わらない。愛する人は、愛している人の時間を管理する。

大学という青春の時間は、時間を自分が管理できる煌めきの時なのだ。池袋行きの電車に乗ったとしよう。諸君の脳裏に波の音が聞こえた時、君は途中下車して海に行けるのだ。高校時代、そんなことは許されていない。働いてもそんなことは出来ない。家庭を持ってもそんなことは出来ない。

「今日ひとりで海を見てきたよ。」

そんなことを私は妻や子供の前で言えない。大学での友人ならば、黙って頷いてくれるに違いない。

悲惨な現実を前にしても云おう。波の音は、さざ波のような調べでないかもしれない。荒れ狂う鉛色の波の音かもしれない。

時に、孤独を直視せよ。海原の前に一人立て。自分の夢が何であるか。海に向かって問え。青春とは、孤独を直視することなのだ。

直視の自由を得ることなのだ。大学に行くことと豊潤さを、自由の時に変えるのだ。自己が管理する時間を、ダイナミックに手中におさめよ。流れに任せて、時間の空費にうつつを抜かすな。いかなる困難に会おうとも、自己を直視すること以外に道はない。いかに悲しみの涙の淵に沈もうとも、それを直視することの他に我々にすべはない。

海を見つめ。大海に出よ。嵐にたけり狂っていても海に出よ。

真っ正直に生きよ。くそまじめな男になれ。一途な男になれ。貧しさを恐れるな。男たちよ。船出の時が来たのだ。思い出に沈殿するな。未来に向かえ。別れのカウントダウンが始まった。忘れようとしても忘れえぬであろう大震災の時のこの卒業の時を忘れるな。

鎮魂の黒き喪章を胸に、今は真っ白の帆を上げる時なのだ。愛される存在から愛する存在に変われ。愛に受け身はない。教職員一同とともに、諸君等のために真理への船出に高らかに銅鑼を鳴らそう。

【ご案内】

平成23年度の年会費の納入をよろしくお願ひします。年会費：3,000円／1人を以下2種類いづれかの方法にて納入をお願いします
(1)郵便振替払込の場合・・・同封の用紙で振り込みをお願いします。(2)銀行振込の場合・・・三菱東京UFJ銀行 中野駅前支店 普通
4654289 中野立教会代表三木原庸夫 に振り込みをお願いします。平成23年4月現在、中野立教会は、男性102名、女性42名、合計144
名の会員で構成されております。ご質問等ありましたら、携帯電話090-7416-5127、メール nobuo.mikihara@icom.home.ne.jpまでご連絡ください。